



1 年	9 8 名	3 学級
2 年	1 0 7 名	3 学級
3 年	9 1 名	3 学級
4 組	1 名	1 学級
5 組	2 名	1 学級
合計	2 9 9 名	1 1 学級

本物に触れる — 修学旅行を終えて —

校長 青野 保

花壇の淵に沿って水仙（スイセン）の葉が伸び始めています。「もう新春の準備か」と師走らしい気分になります。

学校教育の現場では「体験」が重視されています。各教科等をはじめ、あらゆる教育活動に体験を積極的に取り入れることが求められています。科学・技術の進歩により私たちの生活は便利になりましたが、一方で体験する機会を失ってきているようです。インターネット等を利用すれば、実際にその場所に行かずとも建物や風景、展示物などを鮮明に見聞きすることができます。危険を伴わず電車や飛行機を操縦したり、罪悪感を抱くこともなく人を殺傷したりすることさえできます。「体験重視」の背景には、このままでは人として健全な成長が望めず、さらにはより良い人間社会の形成が実現できないのではという危機感があると考えています。私は、生徒たちには、実際に触ったり、味わったり、匂／臭いを嗅いだり、人間が持つ五感あるいは六感といったものをフル稼働させることを通して物の本質を心身に取り込んでほしいと強く思っています。



11月16日から18日、3日間の修学旅行が無事に終了しました。3年生たちは、学校を離れても自主的・主体的に活動し、品格のある態度を具現していました。

改めて、成果は何か？学年生徒92名全員が参加し全行程を共にできたことがまず大きな成果です。そして、何より貴重なのは、全員が京都・奈良を「体験」したことだと思います。換言すれば、「本物に触れた」ことです。東大寺の大仏を見て「ああ、大きい」とか、金閣寺を見て「本当に金色なんだ。光ってる」と思った瞬間に、資料集等で学んで想像してきたことが血となり肉となったのではないのでしょうか。その場所の周囲の音や光や匂／臭いとともに。

時に「あそこは写真と同じだから行っても無駄だよ」、「実際には面白くないよ」などと言う人がいます。その人の感想として尊重はしますが、それはあくまでもその人の感覚であって、自分の感性ではありません。自分自身で体験してみて、その結果同じ感想を抱くかもしれませんが、実際に自分の目や耳、鼻、肌などで確かめることに価値があるのだと思います。この修学旅行を通して、3年生の皆さんは「体験」「本物に触れること」の大切さを学んだと確信しています。

ひと月もすれば、気の早い水仙が咲き始めることでしょう。季節に合わせ、本校も着実に成長していけるよう全力で取り組んでまいります。変わらぬ御支援をお願いいたします。



1組集合写真(東福寺)



2組集合写真(渡月橋)



3組集合写真(北野天満宮)

